

処分組合 ニュース

Vol.22
Jul. 2002



処分組合組織団体

処分組合は組織団体からの負担金で運営されています

八王子市	小金井市	清瀬市
立川市	小平市	東久留米市
武蔵野市	日野市	武蔵村山市
三鷹市	東村山市	多摩市
青梅市	国分寺市	稲城市
府中市	国立市	羽村市
昭島市	福生市	西東京市
調布市	狛江市	瑞穂町
町田市	東大和市	

発行：東京都三多摩地域廃棄物広域処分組合

【事務局】

〒183-0052 東京都府中市新町2-77-1 東京自治会館内 TEL: 042-385-5947 FAX: 042-384-8449

ホームページ <http://www.tokyo-shobunkumiai.com> メールアドレス sskumiai@tokyo-shobunkumiai.com

処分組合は、多摩地域25市 約380万人の可燃ごみ焼却灰や不燃物を埋め立てている二ツ塚処分場を管理・運営している特別地方公共団体です。

主な記事 「なるほど、知るほど、ごみ事情」 「捨てる」暮らしから「活かす」暮らしへ！ / 埋立処分ができなくなる日
日の出だより 三多摩は一つなり交流事業 エコセメント通信 環境調査データ報告 処分組合の動き ただいま参加者募集中！ ~ 処分場見学会のお知らせ

市民、NPO、行政のパートナーシップで進む

「ごみ減量・リサイクル推進」への取り組み

多摩市にある多摩清掃工場の敷地内に、公募によって選ばれた地元NPO(非営利団体)が運営を担当する施設、「リサイクルセンター」がオープン。「地域に根ざしたコミュニティーの拠点を目指したい」と思いを語る、江尻京子センター長に聞きました。

八王子市・町田市・多摩市の取り組み

ごみ減量の地域活動拠点を目指す「リサイクルセンター」が誕生



お話をうかがった
江尻京子センター長



小田急線「唐木田」駅から徒歩5分。周辺には緑も多く残っている

市民参加型の運営を目指す

「リサイクルセンター」が活動を開始したのは今年の4月下旬。八王子市、町田市、多摩市の3市が構成する「多摩ニュータウン環境組合」が設置し、公募によって選ばれた多摩市に事務局を置くNPO「東京・多摩リサイクル市民連邦」が運営するという、全国でもあまり例のない、いわば公設民営の施設です。

「地域の人々がここに何を求めているのかをよく聞き、そのうえでルールをつくっていききたい」と江尻センター長が話すとおり、この施設を使って開く市民向けの講座の企画を積極的に募集するなど、市民参加型の運営を目指しているのが大きな特徴です。

3階建て、広さ約2000㎡の同センターには、講座や会議などに利用できる多目的室、市民グループなどが活動の発表に使える展示スペース、ごみとリサイクルを主なテーマとする書籍・資料のコーナー、構成3市のごみ減量・リサイクル推進への取り組みを紹介するコーナーなどがあり、粗大ごみとして集められた家具や自転車を修理・再生する工房と販売コーナーも設けられています。



収集された粗大ごみのうち、再利用が可能な家具や自転車を手直し。安価で販売している

地域コミュニティーの拠点に

現在、多目的室を使った講座として計画・実施されているのは、ガラス工芸、紙すき、機織りなど。いずれも新しい材料を使うのではなく、それぞれ不要になったガラスびん、牛乳パック、古いシーツや残った毛糸などを再利用し、楽しみながら「物を大切にすること」を伝えていくという内容です。実際にガラス工芸や紙すきを指導するのは、地域の人たち。「生徒を連れて行きたい」という近隣の学童クラブや学校の先生からの問い合わせも多いといわれます。

二ツ塚処分場を支える日の出町は 環境先進地域を 目指します

日の出町長 青木 國太郎

日の出町では、「三多摩は一つなり」の人道的ヒューマニティーの心をもって2つの最終処分場を受け入れ、三多摩380万都民のみなさんとともに、ごみ問題に取り組んでまいりました。



現在、「たまりサイクルの森・二ツ塚廃棄物広域処分場」の関連施設として、焼却灰(焼却残さ)をエコセメント化する施設建設計画が進んでいることは、多摩のリサイクルをさらに推進するものとして、地元日の出町として心から歓迎しているところです。

エコセメント施設では、焼却灰に含まれている「ダイオキシン類」が、製造過程で高温焼成されることによって99.99%除去されます。まさに環境の世紀にふさわしい、技術と科学を駆使した画期的な安全対策と言えるでしょう。

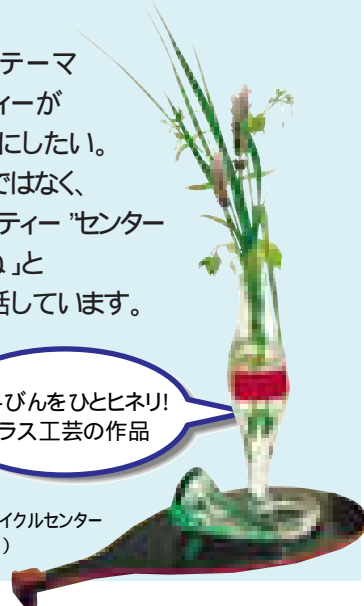
この施設の誕生は、日の出町が目指している「循環型地域社会の構築」のひとつの象徴となり、今、町が進めている「ひのでゴミ00大作戦21」にも一層の拍車がかかるものと期待しております。

21世紀、「循環型社会づくり」が三多摩の新時代を切り拓くことを願い、今後ともみなさんとともに、環境問題に取り組んでまいります。

「地域に根ざし、ごみとリサイクルをテーマに新しいコミュニティーが生まれるような拠点にしたい。リサイクルセンターではなく、リサイクル「コミュニティー」センターを目指したいですね」と江尻センター長は話しています。

飲料びんをひとヒネリ!
ガラス工芸の作品

お問い合わせ先 /
多摩ニュータウン環境組合リサイクルセンター
電話: 042-374-6210(月曜休館)



「捨てる」暮らしから、「活かす」暮らしへ！ 埋立処分ができなくなる日

多摩地域 380万人のみなさまへ
処分組合は提案します

このままではあと12年で二ツ塚処分場が満杯になります

「ごみは、決められた日に出せば、きれいに片づけてもらえる」こんな当たり前のことを支えてくれているのが、ごみの焼却灰と不燃ごみを埋立処分している最終処分場です。しかし、この最終処分場にも、いつか必ず「使えなくなる日」がやって来ます。最終処分場の使用期間を少しでも延ばすためには何が必要なのか、一緒に考えていきましょう！

「無限」ではない！?

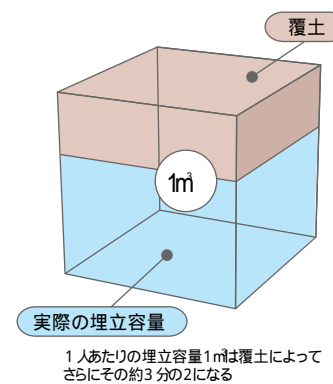
二ツ塚処分場の現状

多摩地域 25市 町の人口は約 380万人
毎日排出される大量のごみは、焼却、破碎されて日の出町にある二ツ塚処分場に運ばれます。
私たちの快適な生活を「緑の下」で支えている二ツ塚処分場の現状を見ていきましょう。

1人あたりの埋立容量はわずか1m³

まず初めに、たて・横・高さとも1mの立方体 (= 1m³) の大きさを思い浮かべてみてください。次に、その大きさの箱が、1人ひとりに割り当てられた個人用のごみ箱だとします。みなさんが実際に排出しているごみの量を考えて、何年くらいごみを捨て続けることができそうですか？

実は、東京ドーム約3杯分、370万m³の全体埋立容量をもつ二ツ塚処分場も、多摩地域の人口(約380万人)で割り算してみると、「1人分の埋立容量は、この立方体とほぼ同じ」ということになるのです。しかも、実際に埋め立てるときには、ごみの上を土で覆う必要があります。この土の分を差し引くと、1人分のスペースは1m³の立方体のさらに約3分の2に減ってしまうのです。



もちろん、収集車が集めた可燃ごみ、不燃ごみがあるままの形で運び込まれるわけではありません。可燃ごみは焼却によって、不燃ごみは破碎(細かく砕く)によって、それぞれ「減容化」(かさ減らす)が行われています。

それにしても、いかがですか？ ふだん私たちが想像するより、ごみを埋め立てる場所には十分な余裕がないことが、おわかりいただけたでしょうか。

あと12年で満杯。新たな処分場建設は困難

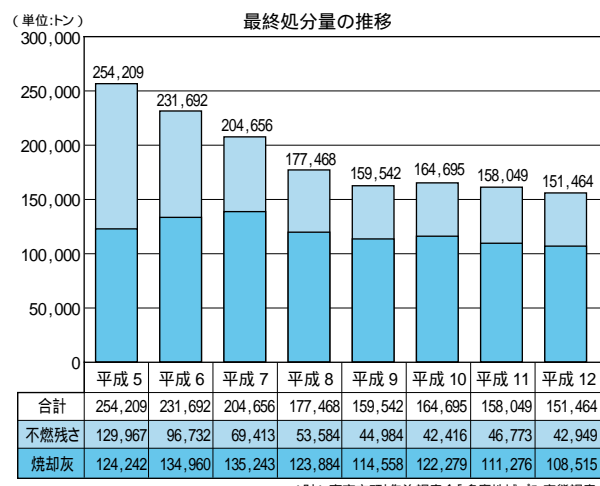
「1人分の埋立容量=1m³」の二ツ塚処分場は、あと12年で満杯になります。このままごみの埋め立てを続けると、私たちは「埋立処分ができなくなる日」に直面することが現実なのです。「それならば、新しい最終処分場をつくれればよい」と考える方もいらっしゃるでしょう。ところが、新たな処分場の建設には用地の確保など困難なことが多く、その可能性はほとんどありません。



まず必要なのは、使用期間を延ばすこと

新しい最終処分場をつくるのが不可能なのであれば、まず考えられる方法は、「二ツ塚処分場の使用期間を延ばす」こと。埋め立てるごみを減らし、残された埋立容量を大切に使いながら、この問題を根本的に解決していくために必要な時間を確保することです。

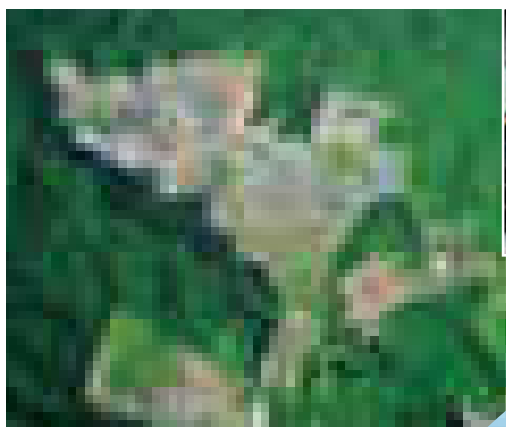
ここで、最終処分場に運び込まれ、埋め立てられるごみの量(1年間の最終処分量)の推移を見てみましょう。グラフが示すとおり、最終処分量は平成10年度に一時的に増えたことを除けば、平成5年度以降、減少の一途をたどってきています。特に不燃ごみの最終処分量は、平成5年度の3分の1にまで減少しました。これは明らかに、多摩地域25市1町の住民と自治体が取り組んできた「ごみ減量・リサイクル推進」の成果と言えるでしょう。多摩地域は全国でも有数のリサイクル先進地域なのです。しかし、残念なことには近年、最終処分量の減少幅は小さくなりつつあります。いくらリサイクルの先進地域であっても、ごみを「ゼロ」にすることはできないのです。



市や町、処分組合、住民が力を合わせて

すでにリサイクルの先進地域であるがために、これ以上の大幅なごみの減量は困難。皮肉にも現在の多摩地域は、こうした状況に置かれています。このままでは、二ツ塚処分場の使用期間を延ばすことも非常に難しいと言わざるを得ないのです。

しかし、ここであきらめるわけにはいきません。残された方法は、市や町、処分組合、そして住民が力を合わせて「ごみ減量」に取り組み、使用期間を延ばす努力を続けながら、「ごみの埋立処分に頼らない社会」を目指していくことです。



市や町の取り組み

「埋立処分ができなくなる日」は実際に近づきつつあります。少しでも長く使用するために、多摩地域の市や町はどんなことに取り組んでいるのでしょうか。

プラスチック類の焼却

多摩地域で発生する不燃ごみのうち、重量で約半分を占めているのがプラスチック類。一部は容器包装リサイクル法によるリサイクルも行われていますが、再資源化されないプラスチック類が多いのが現状です。

そこで、多摩川衛生組合(狛江市、稲城市、府中市、国立市)、柳泉園組合(清瀬市、東久留米市、西東京市)では、プラスチック類の一部を焼却処理し、埋立処分する不燃ごみの量を減らすことに取り組んでいます(武蔵野市では試験焼却を実施)。燃焼温度の管理や排ガス処理などダイオキシン類対策の講じられた施設では、プラスチック類を安全に焼却することができます。



1人ひとりが果たすべき役割

二ツ塚処分場を少しでも長く使うためには、行政、事業者、市民がそれぞれの役割、責任を果たすことが必要です。ここでは、ごみを減らすための「3つのR」について考えてみましょう。



最も大切なのはリデュース、ごみを出さないようにすることです。ごみになるものを買わない、買い物袋を利用する、食べ切れる量だけ調理するなど、ごみとして捨てるものを減らす工夫をしましょう。



次に大切なことはリユース、繰り返し使うことです。捨てたりリサイクルしたりする前に、故障したものなら修理して使う、市役所などの不用品情報コーナーや地域のバザーの利用などを考えましょう。



それでもごみになるものは資源としてリサイクルします。ごみと資源をしっかりと分別すること、また、リサイクルされた製品を積極的に利用することも大切です。

「ごみの埋立処分に頼らない社会」を目指して

「消費は美德」「使い捨てはオシャレ」「大きいこといいことだ」...。高度成長期以降の日本は、このような言葉に代表される「大量生産、大量消費、大量廃棄」型の社会でした。私たちは豊かさ、便利さ、快適さを求めるあまり、生きていくうえで最も大切な基盤である環境をおろそかにしてしまったのではないのでしょうか。その結果、自然が失われ、大量のごみが発生することになりました。また近年、地球温暖化をはじめとするさまざまな地球規模の環境問題の存在も明らかになり、同時に石油など資源の枯渇も心配されるようになりました。

「大量生産、大量消費、大量廃棄」型の社会に疑問をもつようになったのです。そして、「ごみを減らし、リサイクルを進め、資源を大切に使う」社会、できるだけ環境への負荷をかけない「循環型社会」へと変えていかなければならないことに気づいたのです。「ごみの埋立処分に頼らない社会」は、この循環型社会のひとつの形であると言えます。そして、循環型社会をつかっていくためには、1人ひとりがごみ問題を自分の問題としてとらえ、「3つのR」を実行する責任を果たすことが最も重要なのです。

優れたマテリアル・リサイクル

エコセメントの製造工程では、1,350以上の高温で原料(焼却灰)を焼成することにより、ダイオキシン類を分解し、さらに排ガスを冷却して再合成を防ぎます。この結果、焼却灰中のダイオキシン類はほとんどが消失することとなります。重金屬についても、焼成中に排ガスに移行したものを捕集・再利用することができます。製品にももちろん、大気中に放出されるガスや排水にもほとんど残存しません。また、エコセメントの原料には、灰溶融施設で処理されない「飛灰」を使用することができます。エコセメントは普通セメントと同様に使用でき、近日常にJISの認定が行われる予定です。このようにエコセメントは安全であるだけでなく、最終処分場の負担を軽減でき、製品化された後の用途も広いという優れたマテリアル・リサイクルなのです。



家庭ごみの有料化

ごみの減量を進めるために、家庭ごみの収集を有料化する市も増えてきました。現在、青梅、昭島、日野、福生、清瀬の各市で有料の指定袋による収集が実施されています。ごみの量を減らせば料金(指定袋代)の負担が軽くなり、熱心にごみ減量に取り組んでいるみなさんにとっては、不公平感を少なくする制度でもあるのです。昨年、東京都市長会では、「2003年度までを目途に多摩地域全市で家庭ごみの有料化を目指す」とことが指針として定められました。

処分組合の取り組み

埋立処分されるごみの約6割を占めるのが、可燃ごみを焼却した後に残る焼却灰。処分組合では、この焼却灰をセメントにリサイクルする「エコセメント事業」の準備を進めています。

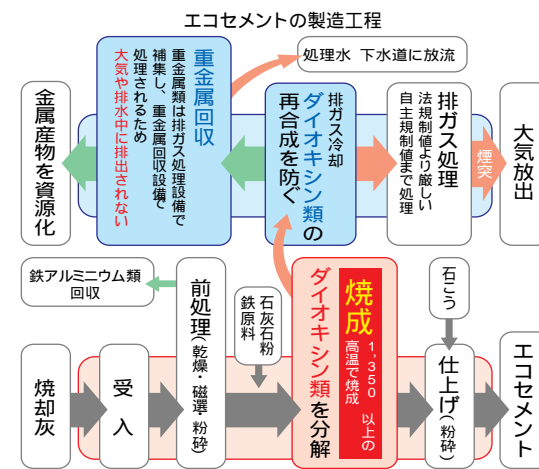
エコセメント事業の推進

埋め立てるのは不燃ごみだけに

処分組合では、これまでにも組織団体(25市1町)と協議して、各市町の搬入配分量、すなわち最終処分場へ運び込むことができる廃棄物の量を決めて「ごみの減量」を求める「廃棄物減容化基本計画」をつくるなど、最終処分場の使用期間を延ばすために努力をしてきました。そして、現在最も力を入れて進めているのが「エコセメント事業」です。

「エコセメント」は、ごみの焼却灰を原料としてつくられる新しいセメントです。これまで埋立処分されてきた焼却灰をリサイクルするので、このエコセメント事業により、最終処分場に埋め立てるのは不燃ごみだけになります。これによって最終処分場の使用期間を延ばすことが可能になるわけです。

処分組合では、二ツ塚処分場の敷地の中にエコセメントの施設をつくり、平成17年度末に稼働させることを目指して準備を進めています。二ツ塚処分場の使用期間は当初16年間を予定していましたが、エコセメント施設が稼働すれば30年以上にまで延ばすことが可能になります。



処分場見学会のお知らせ

ただいま参加者募集中！

夏休み恒例となりました処分場見学会を開催します。今年は、親子だけでなく一般の方にもご参加いただける枠をご用意しました。自分たちが出したごみがどのように処理されているのか、実際に処分場や清掃工場に行って確かめてみませんか？



子どもたちは興味津々！
ごみ処理の秘密を探る冒険に出発！



日時・行程

第1回 8月9日(金) / 8:30JR立川駅集合 西多摩衛生組合環境センター
昼食 ニツ塚処分場 谷戸沢処分場 16:30立川駅解散
第2回 8月19日(月) / 8:30京王線府中駅集合 クリーンセンター多摩川
昼食 ニツ塚処分場 谷戸沢処分場 16:30府中駅解散 (全てバスで移動)

参加資格

親子枠:多摩地域在住の小学校4・5・6年生と保護者(18歳以上)で2名組
一般枠:多摩地域在住の方(中学生以上)。個人か2名組でお申し込みください。

申込み方法

往復はがきにて「処分場見学会参加希望」と明記のうえ、参加者の氏名、年齢・学年、住所、電話番号、希望回・枠をご記入ください。
第1回:7月24日(月)必着 第2回:8月1日(月)必着
申込み者が多い場合は抽選。結果は、はがき復面でご連絡します。

募集人員

第1回:親子枠20組40名、一般枠:40名
第2回:親子枠40組80名

申込み・お問い合わせ先

処分組合「処分場見学会」係
(住所・電話番号はこのページの一番下にあります)

参加費 無料

日の出だより



No.14

初夏の日の出町で自然満喫の1日を

日の出山の絶景とつるつる温泉で心身をリフレッシュ
標高902m「日の出山」の山頂からは360度の視界が開け、都心の高層ビルや関東平野、周囲の山々などが一望できます。山頂の「絶景」を味わいながら休憩を取った後は、なだらかな道をゆっくりと下り、「つるつる温泉」へ。緑に囲まれた山あいの温泉で汗を流し、ゆったりとしたつるつるのひとときを。

肝要の里とさかな園で自然とふれあう

つるつる温泉の周辺には、町内で飼育されているジャージー牛の生乳を使用したアイスクリームをはじめ、町内で生産された各種農作物を原材料にした「手作りの味」が楽しめる「肝要の里」や、平井川の清流を利用した釣り場とバーベキュー施設を備えた「さかな園」などがあります。さかな園には肉や野菜などの材料と道具一式のセットがあり、また、釣りやつかみ取り(要予約)したニジマスを手で焼いて食べることもできますので、子どもから大人まで十分に楽しむことができます。



平井川で魚をつかみ取り



家族や友達と釣った魚などをバーベキューで

初夏の1日、市街地の喧騒を離れて、自然の中で心と体を癒してみたいいかがでしょうか。

お問い合わせ先 /

日の出町 経済課商工観光係 電話: 042-597-0511(内線242)

日の出町ホームページ <http://www.town.hinode.tokyo.jp/>

ひので肝要の里 電話: 042-597-5290

定休日=毎週火曜日(祝日を除く)

月・日(月)は臨時休業

ひので三ツ沢つるつる温泉 電話: 042-597-1126

定休日=毎週火曜日(祝日の場合は翌日)

月・日(月)は臨時休業

自然休養村さかな園 電話: 042-597-4911

定休日=第1 第3火曜日(10月~2月は毎週火曜日)

三多摩は一つなり交流事業

2002年春 実施イベントの報告

瑞穂町と日の出町、
そば打ち体験で交流(3月30日)
瑞穂町と日の出町の家族計46名が、そば打ちを体験。ニツ塚処分場を見学した後、手打ちそばを味わいました。



そば打ちに挑戦する参加者

ひの新選組まつりに
日の出町民を招待(5月12日)
日野市で開かれた新選組まつりに日の出町民36名が訪れ、日野のみこしや新選組隊士のパレードを楽しみました。



新選組の扮装でのパレードは華やか

2002年7~9月 実施イベント

実施日	イベント名	事業主体
7月20日(土)	親子そば打ち体験(昭島市)	日の出町
7月30日(火)	パルテノン多摩タンゴショー	多摩市
9月28日(土)	サッカー観戦	稲城市

エコセメント通信

処分組合理事会が市原エコセメント施設を視察

5月14日、処分組合理事会の副議長である吉尾調布市長をはじめ、寺田町田市長、馬場日野市長、野崎東久留米市長の4名の理事が、千葉県市原市にある市原エコセメント施設を視察しました。市原エコセメントは現在操業している世界唯一のエコセメント工場で、製造工程や安全対策などの説明を受けた後、実際に稼働している様子を見学しました。



エコセメント施設で製造工程や安全対策を見学



処分組合の動き

- 5月14日(火)5 理事会市原エコセメント視察
- 5月24日(金)6 平成14年第2回エコセメント推進委員会
- 6月7日(金)6 第1回処分組合技術委員会
- 6月11日(火)第1回環境保全調査委員会
- 6月13日(木)第3自治会谷戸沢処分場監視委員会
- 6月20日(木)第2自治会ニツ塚処分場対策委員会
- 6月27日(木)平成13年度谷戸沢・ニツ塚処分場水質等調査結果公表
平成13年度処分場敷地内大気中のダイオキシン類調査結果公表
平成13年度底質中のダイオキシン類調査結果公表
平成13年度水質中のダイオキシン類調査結果公表
平成13年度処分場水質中の外因性内分泌攪乱物質の調査結果公表

問い合わせ先 TEL: 042-385-5947 FAX 042-384-8449

処分組合のホームページをぜひご覧ください

処分組合ニュースの内容やごみ処理に関するお考えなど、みなさまのご意見をお手紙・電子メールでお聞かせください。また、組合の概要やデータ類を掲載したホームページも、ぜひご覧ください。
〒183-0052 東京都府中市新町2-77-1 東京自治会館内
東京都三多摩地域廃棄物広域処分組合「処分組合ニュース係」
[ホームページ] <http://www.tokyo-shobunkumiai.com>
[メールアドレス] sskumiai@tokyo-shobunkumiai.com